

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O992500074		
法人名	特定非営利活動法人 フロレンス那須		
事業所名	認知症高齢者対応型グループホームソフィア (ユニット ゆず棟)		
所在地	栃木県那須郡那須町大字寺子丙104-3		
自己評価作成日	平成30年1月21日	評価結果市町村受理日	平成30年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者グループホームとして、地域密着という事で近くの中学校と関わりを持ち、地元のボランティアグループを多数受け入れ、利用者が多くの住民を交流が持てるように力を注いでいます。現在は、共用型デイサービスも積極的に実施しており、デイサービスの利用者様との交流も良い刺激となっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町中心部からほど近く、周辺には運動公園や学校、保育園、住宅があり、那須連山が見渡せる自然豊かな中で、静かに落ち着いて暮らせる環境が整っている。「人を尊重し、人に感謝をし、人に真心で接する」との理念の基に、利用者に対する言葉づかいや接遇について積極的に研修や教育を行い、質の高い介護サービスの提供に努めている。共用型デイサービスや東日本大震災の被災者の受け入れも行っており、利用者で交流している。日頃から近隣の方から野菜等の差し入れがあったり、音楽関係や踊り等のボランティアの訪問、保育園や学校との交流や地域の催しに参加するなど、地域との交流にも努めている。歌やゲームを交えたレクリエーション体操や折り紙等の作品作りなど、利用者個々に合わせた活動も積極的に行っている。日中はほとんどの利用者がリビングで寛ぎ、元気な声や笑い声が絶えない事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成30年3月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念を唱和し、また常に見えるところに理念を掲示していることで、職員全員が理念を共有し実践につなげている。	出勤時や申し送り時に理念を唱和するほか、事業所内に掲示し、職員が常に意識できるようにしている。利用者を敬い、利用者の気持ちになって柔らかな言葉かけを行うなど、全員が理念を共有し意欲的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流できるように支援している。また、近所の方々が農作物を持ってきて下さったり、お茶を飲んでいかれたりしている。	お祭りや催し物等地域の行事に参加している。近くの保育園や音楽、踊りのボランティアの訪問のほか体験学習で受け入れた中学校の発表会への招待もある。近隣の方からは野菜等の差し入れがあるなど、良好な地域交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座などを開き、認知症の理解、支援の方法などを地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、地域住民などの外部からの貴重な意見をサービスの向上に活かしている。	家族代表、民生委員、町担当職員、町社会福祉協議会職員、地域住民の参加により2か月に1回開催している。行政からは高齢者福祉の現状や今後の動向等の説明や意見等が出されるなど、情報を共有しサービス向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護保険係や地域包括支援センター、社会福祉協議会と連携し、積極的に情報交換をしながら協力関係を築くように取り組んでいる。	町役場に出向いたり、メールでのやり取りなど、町担当者とは日頃から情報共有し、良好な協力関係を築いている。町主催の研修会等には講師を務めるなど積極的に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修を設け、職員一人ひとりが拘束をしないケアについて確認し、真剣に取り組んでいる。	内部研修を積極的に実施するとともに日常の業務の中でも、職員間での話し合いや管理者の指導により身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠は夜間のみで、帰宅行動等にはよく話を聞いて背景を考えるなど、寄り添った対応を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を設け、いかなる場合も虐待はいけないことを職員に徹底し、虐待のない事業所として取り組んでいる。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修を通じ、全職員が学べる機会が持てるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に重要事項説明書の説明を丁寧に行い、十分に納得いただいてから契約に至るよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議において、利用者様の家族に意見を頂き、参考にさせていただいている。	利用者からの意見等は家族からの情報や日常生活の様子から丁寧に把握するよう努めている。家族からは面会時や運営推進会議において意見等を聞いており、全職員が共有し運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見交換などをし、また毎月の職員会議などで意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	日常の業務において管理者を中心に意見交換を行い、速やかな対応に努めている。毎月の職員会議においても意見や提案を聞き、検討の上運営に反映させている。行事のアイデアやケアに関する意見等が多く出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の定例会議により、個々の職員の意見交換をすることで、向上心を持てるような環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得などの支援をしている。また、OJT、OFF-JT等研修を受ける機会をできる限り確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護の職場実習の受け入れ施設として役割を果たしている。また、近隣の事業所と頻繁に意見交換を行っている。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことによって本人の思いを理解し、安心できるような信頼関係が築けるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、じっくりと話し合いを持つことによって家族の思いを理解し、不安を感じさせないよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、しっかりとアセスメントし、何がまず必要かを見極め、対応に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人のできる事、できない事を把握し、暮らしを共にする者として、できる限り協力して行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人を支えていく上で、職員、本人、家族の絆を大切にしながら、家族と共に同じ思いで取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などの面会の度、一緒に写真を撮りアルバムに収め、いつでも見られるように取り組んでいる。	家族や友人等の面会時には写真撮影し、いつでも見られるようにしている。行きつけの美容院や理髪店に行ったり、町内のレストランでの外食、買い物、墓参り等、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はできるだけフロアで過ごして頂き、利用者様同士が関わり合い、関係を深められよう取り組んでいる。別のユニットの利用者様、デイサービスの利用者様との関わりも良い刺激になっている。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方との関係性も大切にし、必要に応じて相談や支援も行えるように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。	職員は日頃の関わりの中での会話や気付きなどから利用者の希望等を把握するよう努めている。家族からの聞き取りにより把握することもある。食べたいものはメニューに反映させたり、折り紙やぬり絵などの趣味が継続できるよう意向に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や家族が来所された時に、これまでの生活歴や生活環境を聞き把握に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が一人ひとりの利用者様の現状が把握できるように情報共有の仕組みを実践している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時に意見を聞いたり、月1回の職員会議での意見を参考にしながら介護計画を作成している。	家族の面会時に意見を聞いたり、必要に応じ主治医の助言を取り入れ、本人がより良く暮らせるよう職員会議で検討の上介護計画を作成している。モニタリングにより援助目標の達成度を確認し、状況変化に応じ随時見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様々な種類の個別記録をもとに、日々の様子や、気づきを介護計画の見直しに十分活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の作った枠組みにとらわれず、臨機応変に、ご本人に最適なサービスが提供できるように取り組んでいる。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町主催のイベントを中心に、積極的に地域資源を利用し、楽しい生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として本人及び家族の希望を尊重し、事業所としてその医療機関と信頼関係を築きながら支援している。	基本的には本人及び家族の希望するかかりつけ医での受診を支援しているが、協力医を主治医とし、往診を受ける利用者もいる。利用者の健康状態や受診状況等の情報を共有し信頼関係を築き支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の身体状況を確認し、変化があった際はすぐに看護師に報告し、早めの対応に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の同行、入院中の面会、家族との連絡を密に取り合い、直接医師より話を伺ったり、情報交換をしてより良い関係に取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院先の医療チーム、当ホームの協力医療機関、ご家族様とよく協議し、話し合いを重ね、良好な関係を構築している。	重度化した場合は、家族や医療関係者等と協議し、その時々の利用者の状態に最も適した対応に努めている。医療機関への入院や特別養護老人ホーム入所を視野に入れながらも、家族の意向や本人の状態により看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルに沿って実践できるようにし、定期的に研修をおこない職員一人ひとりの技術を身につけていけるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行っている他に、夜勤者2名での模範訓練を毎月行い、消防署や近隣との協力のもと、万が一の災害にそなえている。	消防署の指導により防災訓練を年2回実施している。両棟の夜勤者2名での模擬訓練を毎月実施し、災害時の対応力向上に努めている。職員連絡網、食料や水等の備蓄、停電時や寒さへの対応等も整備している。	地域住民の災害訓練への参加や連絡網への登載など、地域との協力体制作りに向けたさらなる取り組みに期待したい。

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活環境をよく把握し、言葉遣いなどに気をつけ、人格の尊重を優先に生活援助に取り組んでいる。	利用者に対する言葉づかいや接遇は理念に基づいて実践しており、法人の作成した「基本の言葉20」を遵守し、人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常に利用者様の意思表示を促す声かけをし、自己決定ができるように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合を優先することなく、その人らしさにこだわり、個々のペースに合わせた生活を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分や季節、天気によっておすすめしたり、本人の希望に合わせて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食メニューを公表し、それを話題にした、できる範囲で調理、片付けなどの手伝いをして頂き、楽しみながら行っている。	美味しい食事の提供に努め、食材の買い出しや調理は元調理師などの専任職員が担当し、献立は希望をとり入れながら2週間ごとに作成している。四季を通しての行事食や外食、おやつ作り等も楽しみとなっている。職員と一緒に調理や片付けを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事や水分の摂取量を記録し、変化があればすぐに話し合いを持ち、常に栄養や水分の摂取に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、必ず仕上げは職員がお手伝いさせて頂き、清潔保持できるように支援している。		

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを常に把握できるように排泄チェック表をつけ、トイレでの排泄ができるように支援している。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や行動等から早めの声かけ、誘導を行いトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容、運動などを考えて、そして毎日手作りのヨーグルトを摂取することで、極力薬に頼らないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく、事業所側の都合と利用者様の希望が合うように時間帯を調節し、より楽しく快適に入浴できるような支援をしている。	入浴は週3~4回としているが、随時の入浴や午前、午後の入浴、一番風呂など希望に沿って対応している。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を用いたり、職員と昔話をするなど、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜の睡眠に対して、個々の生活リズムを尊重し、その方にあった休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容が確認できるようになっており、職員一人ひとりが把握し適切な服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割や楽しみを持っていただき、張りのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	活動予定以外にも天気の良い日など外出する機会を多く設け、気分転換ができるように支援している。	事業所周辺を日常的に散歩しているほか、年間計画を立て町内外へ出かけている。予定外の日でも外出する機会を設け気分転換を図っている。季節によりお花見や地域の催し等にも出かけ、記念写真集を作っている。近隣の喫茶店への外食や買い物など、希望に合わせて支援している。	

認知症高齢者グループホームソフィア

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々でお金を所持し、買い物することは殆どないが、お金を所持していることで不安を解消できる方は、少しだけ所持して頂き対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話の支援をしたり、便せんや封筒を用意し、やり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく開放感のある空間になっており、季節感やその時期の行事などが感じられるものを飾るなど工夫している。	室内は明るく開放感があり、温湿度も適度に調整している。リビングにはテレビや大きめのソファを置き、談話や休憩などくつろげるよう配慮している。玄関や壁などに季節の写真や作品を飾り、季節感を感じられる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれたり、気の合った利用者様同士で過ごせることはもちろん、ユニット間の隔たりを無くすことで、より自由に過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた物を自由に持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	備え付けのエアコンや洗面台、ベッドやクローゼット等以外は使い慣れた物を自由に持ち込むよう支援している。室内には家族の写真や手作りの作品などを飾ったり、テレビや筆筒等を配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの持っている力に合わせ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるような環境を作っている。		